

「安心・安全な社会に貢献する教育システム」 「プログラミング・情報技術教育に関する 実践・支援システム」 特集号の発刊にあたって

光原 弘幸

(徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 学会誌編集委員会幹事)

1. はじめに

近年、社会が大きく変動している。これに伴い、さまざまな課題が提示され、課題解決に向けた取組が精力的に進められている。例えば、自然災害やサイバー攻撃の増加を受けて、防災・減災やサイバーセキュリティ対策が強化されるとともに、これらに関する教育の充実も図られている。また、急激な情報化に対応できる高い思考力をもった人材を育成するために、小学校でプログラミング教育が必修化されるなど、情報教育もこれまで以上に推進されている。

以上のような状況を踏まえ、本学会誌では、「安心・安全な社会に貢献する教育システム」(以下、テーマ1)および「プログラミング・情報技術教育に関する実践・支援システム」(以下、テーマ2)の二つのテーマに関する特集号を企画した。テーマ1では、われわれが遭遇しうるさまざまなリスクを対象に、安心・安全な社会に貢献する多様な教育システムを扱うことにした。テーマ2では、専門的な技術者育成だけでなく、さまざまな学習者に対して必要とされるプログラミング・情報技術教育に関する実践や支援システムを扱うことにした。このような方針のもと、本特集号では、当該テーマにおける新たな教育支援技術、ならびに当該分野の技術を応用した教育実践に関する論文を幅広く募った。

2. 論文の投稿数と判定結果

2017年6月9日のエントリ締切、2017年6月

15日の論文投稿締切を経て、最終的に28編(一般論文^(注1)9編、実践論文9編、ショートノート6編、実践速報4編)の投稿があった。テーマ別の投稿数は、テーマ1に11編(一般論文2編、実践論文4編、ショートノート5編)、テーマ2に17編(一般論文7編、実践論文5編、ショートノート1編、実践速報4編)であった。

査読においては採録の可否の判断とともに、特集号テーマに関する成果が盛り込まれているか否かについても厳正に審査した。その結果、ショートノート1編を一般号での採録とした。最終的な特集号の採録は14編(一般論文6編、実践論文1編、ショートノート5編、実践速報2編)となった。採択率(特集号)は50%であり、昨年度の57%を下回ったが、例年よりは高い採択率となっている。なお、テーマ別の採録数は、テーマ1が6編(一般論文2編、実践論文1編、ショートノート3編)、テーマ2が8編(一般論文4編、ショートノート2編、実践速報2編)となった。

本特集号には、急速に需要が高まっている二つのテーマに関する論文が掲載されている。本特集号がさらなる研究・開発・実践につながれば幸いである

3. 特集論文研究会

今回で9回目となる研究会委員会と連携した特集論文研究会が、2017年3月18日に北九州市立大学北方キャンパスにおいて開催された。特集論文研究会

^(注1) 35巻1号から“原著論文”は“一般論文”に名称変更されました。